

Card Seek ブロマガ(Vol.3)

2012 年 2 月 13 日 号

「今、ここで」



小河 俊 紀

還暦を過ぎて、仕事と生活の基盤が徐々に
地元に戻ると、なぜか「地域は広い。も
しかしたら、今まで生きてきた世界より大き
くて深い」と思うようになった。一般的な常
識と逆の実感だ。

それまでの36年間は、勤務先は変わって
も、都心の大手企業本社に通う毎日だった。
お付き合いする企業・部門は多岐にわたり、
出張も多い全国ベースの仕事だったので、広
い世界をピピッドに生きている自負があった。
だから、定年でその役割を終えれば、時間の
止まった狭い世界に落ち込む閉塞感＝恐怖感
があった。実際は、その逆だった。

● 地域の潜在能力

顧問活動拠点を地元にした効用もあって、
今までと違う世界の方々とも日々出会うよう

になった。地元に着し、長年地域を支えてきた経営者が沢山おられる。経歴も性別も、年齢も実に様々だ。



たとえば、アレルギー防止のため卵を使わないケーキを開発し、全国コンクールで受賞された店主もいれば、50年間もコンピュータの研究を続け、今は春日部地区独自のSNS構築に心血を注がれる凄い専門家もいる。

また、写真一枚で本人より本人らしい似顔絵を描き、安価にデータ提供する女性起業家もいる（巻頭掲載見本が、私です）。

● 現実には、今、ここにある

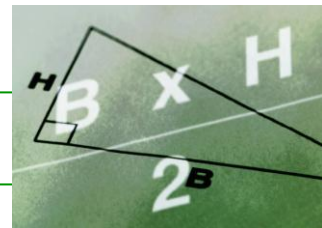
私は若いころから、良く言えば「未来志向」、悪く言えば「現実逃避志向」が強かった。常に、「本当の幸福は、どこか遠い未来の、しかも別の場所にある。」という飢餓感に囚われていた。それが、行動のバネにもなったし、挫折の原因にもなった。

しかし、還暦を過ぎ「未来に残された時間

は、それほど長くない」と気づいてから、考
え方が変化し始めた。

「現在は、過去の到達点であり、未来への
出発点である。過去のない現在も、現在のな
い未来もない。最高の価値は、現在にある」
という当たり前の意味をようやく悟った。

同じ心境変化が、人間関係にも起こりつつ
ある。仕事のお付き合い先はもちろんだが、
家族、そして近隣は掛け替え
のない生存基盤である。



● 大きさの定義

地理的な意味では、ビジネスの世界は確か
に大きい。しかし、分業化の進んだ現代、そ
れは、あくまで「類似のベクトルで結ばれた
点と線の世界」と言えないだろうか。どれほ
ど複雑に錯綜していても、1次元、もしくは
2次元（平面）のような。

一方、老若男女、雑多な職業・立場の人が
公私・縦横に凝縮して隣り合う地域空間は、
3次元的（立体的）と感じてならない。